



R6年 11月

吉川つばさ保育園

- 5日(火) 乳児身体測定
- 6日(水) 幼児身体測定
- 7日(木) 内科検診 9時30～
- 11日(月) 幼児組バス遠足
- 12日(火) 市内年長合同運動会
- 12日(火) 歯科検診 12時30～
- 18日(月) 避難・消火訓練
- 19日(火) 市内年長合同運動会予備日
- 19日(木) お誕生会
- ★10時15分から行います。5分前にお越しください
- 21日(木) 収穫祭・地域交流会
- 26日(火) 発表会予行練習(すみれ組・幼児組)



○内科検診、歯科検診は日にちが変更になっております。ご了承ください。当日家庭保育でお休みの方、お時間に来ていただきましたら優先で検診のご案内が出来ますので来られる場合は事前に職員にお声掛けください。連絡帳またはシール帳をお持ちください。お休みで検診を受けられない場合は後日相羽医院、えじま歯科にて受診できますので職員にお声掛けください。持って行っていただく用紙をお渡しいたします。

すみれ・さくら・ひばり・つばめ組皆様、運動会へのご参加と当日のアットホームな雰囲気づくり、ありがとうございました。また、アンケートへのご協力もありがとうございました。いただいたご意見を参考にし、来年度の運営に活かしていきたいと思っておりますのでよろしく申し上げます。

STEM 教育のススメ

子育て支援担当より

これからのIT社会を生きる子どもたちに必要な能力が養われるといわれる教育分野、それがSTEM(ステム)教育です。

幼児期のSTEM教育は、実際にモノを操作したり、自然体験をしたりして五感をめいっぱい使いながら「どうして?」「どんな仕組みなんだろう?」「どうやったらできるかな?」と考える機会をたくさん作ることです。「なんでこうなるのかな?」「こうしたらどうなるんだろう?」という思いを子ども自身がじっくりと試し、遊びながら学んでいきます。お友だちと一緒に考えたり、試してみたり、一人でじっくりと楽しんだり…。遊びの中で、不思議、発見を楽しみ、疑問を追求することは最大の学びです。

だからといって特別なことをしなくてもいいのです。例えば保育園では、空き箱や廃材を使った工作を通して、子どもたちの「こうしたらどうなるんだろう」「こうするにはどうしたらいいんだろう」を育てています。花を育てたり、虫を飼ったりする自然体験では、エサは何を食べるのか自分たちで調べていました。調理体験ではお湯に入ると色が変わることを発見しました。色々な形のパーツを組み合わせて遊ぶパズルやブロックなど空間認識能力を高める知育玩具などを行っています。1歳の小さな子どもでも流しの中でどんどん小さくなる氷をじっと見て、形がなくなってしまうと「あれ?」という表情で保育者を見てくるなど、言葉がなくても発見したり、不思議に思うことはたくさんありますよね。普段遊んでいるものから子どもたちの「どうして?」や「こうしてみたい」を私たち保育者も「どうしてかな?」と一緒に楽しんでいます。

東京大学教授の遠藤利彦先生の講演会でのお話を数回に分けてご紹介します。
ご興味のある方、「CEDEP」を検索 ホームページ内に動画や資料あります。

テーマ「アタッチメントと非認知的な心の発達」について

アタッチメント→**子どもが怖くて不安な時、感情が崩れた時に特定の誰かにくっつき安心感を得ること**。単なるスキンシップ（皮膚接触）とは異なる。

※家庭でも園でも、子どもの一番近くにいる大人が幼少期の子どもとどのような関係を持つのが大事！

社会性＝自己信頼（人からちゃんと愛してもらえる。価値がある）と他者信頼（人を信じて良い）

※身につけておく心の土台。土台ができていないと、非行や犯罪、心や体の問題が多く発生してしまう。

【安心感の輪】

感情の崩れ→特定他者への近接を通した「安心感」の回復・維持→保護してもらえることへの確かな「見通し」→「見通し」に支えられての自発的「探索」→一人でいられる能力（自律性の獲得・拡張）

※安心感に浸れている子は「見通し」の感覚がもてる。

見通し＝何かあったら戻れば大丈夫という感覚。幼少期に怖くて不安な時にしっかりとくっつくことができている子ほど一人でいられるようになる。

大人の役割

・崩れた感情に寄り添い、共感的に受け止め、それを「鏡」になって映し出してあげる。

※転んだ時に「痛かったね」痛そうな表情。子どもの気持ちにふさわしい言葉や表情。まるごと受け止めてもらえている安心へ

・崩れた感情を立て直し、安心感を回復させる

※お菓子やおもちゃを与えるは、その場しのぎになってしまう…

・送り出す役割

※元気になった子ども自分のところに留めておくのではなく、また一人で探索や冒険に行けるよう応援し離れたところから見守ってあげる。

・大人が安全な避難所・安心な基地になる

どんなに年齢があがっても避難所／基地はなくしてはいけない。変わらずあり続ける。何かあったら戻れる守ってもらえるところがあることが大事



保育目標

ひよこ→・戸外で自由に歩いたりハイハイしたりし、探索活動を存分に楽しむ。
・気持ちを仕草や指差しなどで伝え、保育者に受け止めてもらい機嫌よく過ごす。

たんぽぽ→・いろいろな絵本に親しみ、言葉や絵の面白さを味わう。
・身の回りの事を自分でしようとする。

すみれ→・保育者やお友達と言葉のやり取りやごっこ遊びを楽しむ。
・身の回りを清潔にし快適に過ごす。

さくら→・自分の思いを友だちに伝えながら、友だちの思いにも気づいていく。
・季節の変化を肌で感じながら、戸外で元気に体を動かして遊ぶ。

ひばり→・戸外での探索や体を動かすことを楽しむ。
・劇遊びやリズム遊びでは自分なりに表現することを楽しむ。

つばめ→・自信をもって堂々と表現することを楽しむ。
・友達とイメージや意見を出し合い、友達の良さを受け入れ、遊びを展開していく。